

平成30年度 第63回 山口県音楽創作コンクール入賞者

審査 H31.2.6

部門	部	賞	学校名	学年	氏名
歌曲	小学校	特選	山口市立大殿小学校	5年	黒木 彩花
		入選	山口市立大殿小学校	5年	安仲 桜
		入選	山口市立大殿小学校	5年	塩田 奈央
		入選	山口市立大殿小学校	6年	木嶋 奏
		入選	山口市立大殿小学校	6年	有行 伸仁
	中学校	特選	周南市立熊毛中学校	3年	弘中 二葉
		入選	周南市立熊毛中学校	1年	弘中 芹
高校	入選	山口県立長府高等学校	3年	濱脇 幸恵	
器楽	中学校	特選	山口市立大殿中学校	2年	牛島 惇
	高校	特選	山口県立徳山高等学校	1年	松尾 優太
		入選	山口県立長府高等学校	3年	植田 澄歌

※表中の入選欄における順番は審査上の作品番号順であり、順位ではありません。
 ※器楽部門の小学校の部への応募はありませんでした。

●歌曲部門 寸評

- ・全ての作品が思いや意図をもったもので、好感がもてる作曲であった。
- ・丁寧に記譜をすることを心がけること。(読譜してくださる人への心遣いを記譜で表現できるとよい)
- ・言葉のリズムと旋律のリズムが呼応するなど、詩とメロディの整合性を意識した作曲が望ましい。
- ・和音の流れを意識するとよりよい曲になる。
- ・演奏者が歌いやすいメロディラインにするとよい。(音域や跳躍などの設定)
- ・構築性を大切にし、形式にのっとって作曲するとまとまりのある作曲が期待できる。具体的には、モチーフがあるかどうか、など。そういった視点から、努力が見られる作品が多々あったことは喜ばしい。
- ・休符の設定が歌いやすさにつながるため、音楽における休符の効果を意識した作曲を期待する。

●器楽部門 寸評

- ・どの作品も思いや意図をもった作曲で、楽しく審査をさせていただいた。
- ・丁寧に記譜をすることを心がけること。(読譜してくださる人への心遣いを記譜で表現できるとよい)特に、縦のラインをそろえてほしい。
- ・創作意欲は感じられるが、推敲が足りない作品が見受けられた。和声進行がありきたりになると飽きるので、変化を加えるなどの創意工夫をするとよい。何回も聞ける曲か、という視点をもってほしい。
- ・拍子の設定に関しては明確な意図が見えなければならない。また、リズムがかみ合っているか確認する必要がある。
- ・メロディラインの楽器の組み合わせに一工夫を。コンデンススコアにおとせるかどうかという視点を持ち、セクションごとにきちんと整理されているかを確認してほしい。
- ・各楽器の音域を広く使うことで、表現の幅が広がる効果を活用するとよい。
- ・全体的な構成について、モチーフがあるとよい。また、どこにクライマックスを置くかなどコントラストをはっきりさせ、意図を明確にした作曲を心がけるとよい。
- ・主旋律が他のパートに効果的に散ると広がりや深みのある作品となるであろう。